

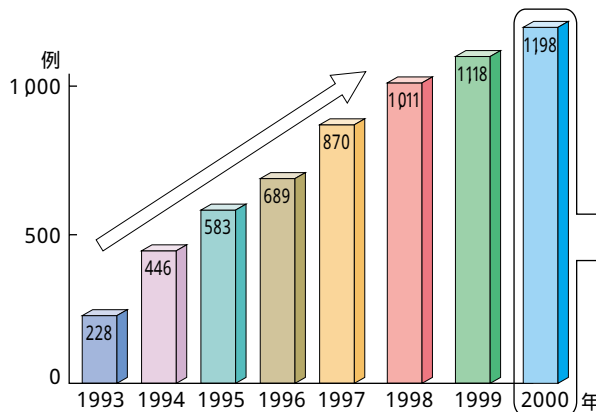
＋輸血情報

【赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用—2000年—】

2000年の1年間に、医療機関において輸血による副作用・感染症と疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も報告数の多い非溶血性輸血副作用について示します。

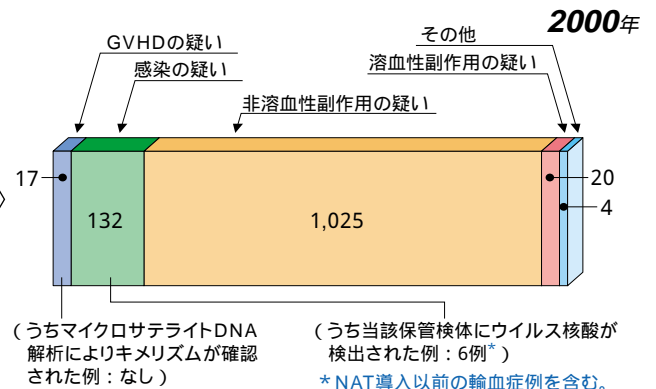
輸血副作用・感染症報告件数(医療機関から報告された数、輸血との因果関係が低いものも含む)

■報告件数の推移



■報告の内訳

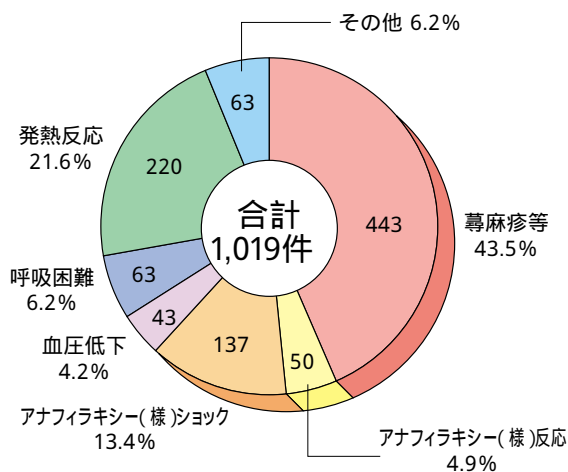
「非溶血性副作用の疑い」の報告数が最も多く、全体の86%を占めています。



非溶血性輸血副作用(2000年)

■副作用の種類

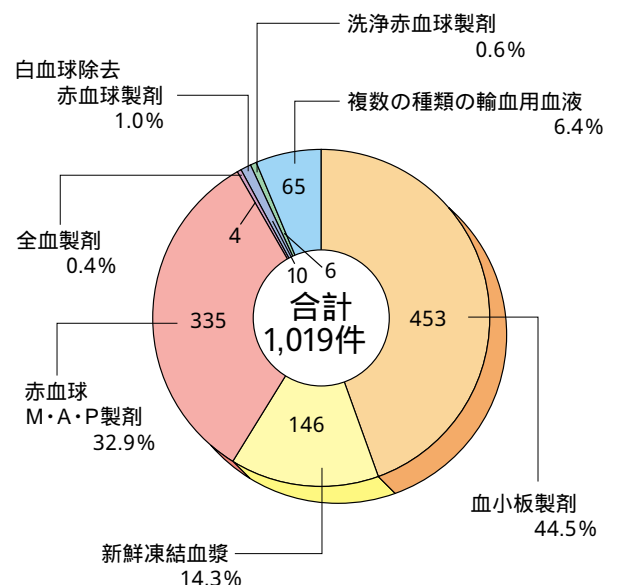
副作用の種類別内訳は前年(1999年)とほぼ同様の比率で、『アナフィラキシー(様)反応』、『アナフィラキシー(様)ショック』、『血圧低下』及び『呼吸困難』の重症例が全体の29%を占めています。



【アナフィラキシー(様)反応】
全身潮紅、蕁麻疹、血管浮腫(顔面浮腫、喉頭浮腫等)、呼吸困難等の全身症状を示したもの。
 【アナフィラキシー(様)ショック】
「アナフィラキシー(様)反応」に血圧低下を伴ったもの。
 【血圧低下】
皮膚症状、呼吸困難等の症状を伴わずに血圧低下を示したもの。

■使用薬剤の種類

血小板製剤の使用による副作用が多く報告されています。



上記製剤には放射線照射製剤が含まれる。

■ 使用製剤・症状別 副作用報告頻度

供給数10,000本あたりの報告件数を使用製剤別にみると、血小板製剤が最も多く、6.43件でした。

使用製剤・症状別では、血小板製剤の「蕁麻疹等」が最も多く、3.14件でした。

使用製剤・症状別副作用報告頻度

供給数10,000本あたりの報告件数

2000年

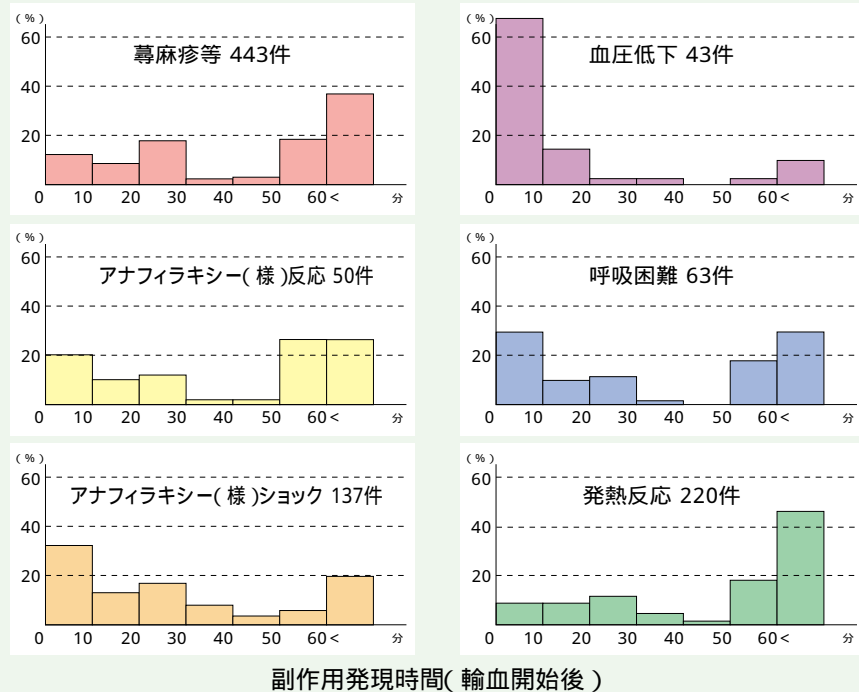
	血小板製剤	赤血球M・A・P製剤	全血製剤	新鮮凍結血漿
蕁麻疹等	3.14	0.24	0.44	0.50
アナフィラキシー(様)反応	0.48	0.02	0	0.03
アナフィラキシー(様)ショック	1.31	0.07	0	0.05
血圧低下	0.11	0.07	0.22	0.03
呼吸困難	0.41	0.07	0	0.02
発熱反応	0.84	0.38	0.22	0.08
その他	0.14	0.13	0	0.03
計	6.43	0.99	0.89	0.74

上記製剤には放射線照射製剤が含まれる。

■ 副作用発現時間

輸血開始後10分以内に副作用が発現した症例が、「血圧低下」で68%、「アナフィラキシー(様)ショック」で33%、「呼吸困難」で30%を占めています。

輸血中は患者さんの様子を適宜観察することが必要ですが、重篤な副作用の発見のために少なくとも輸血開始後約5分間は観察を十分に行い、約15分経過した時点で再度観察してください。



輸血用血液又は血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。

また、原因究明のために、使用された製剤バッグ、患者さんの検体(輸血前・輸血後)等のご提供をお願いします。なお、使用された製剤バッグは、できるだけ清潔な状態で冷所に保存しておいてください。

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-31
TEL:03-5485-6607 FAX:03-5485-7620

お問い合わせ